

中国語学専攻

Chinese Studies



本専攻では学部で培った知識を基とし、語学または文学・文化の側面から研究を行います。語学研究では、いわゆる古典以外のものを研究対象とするよう指導しており、具体的には、唐宋代以後の白話及び現代漢語(方言を含む)を対象としています。文学・語学のいずれを専攻するにしても、自分の専門以外の知識も幅広く身につけ、将来いわゆるSinologistに一步でも近づくことを目指して勉強しています。

Based on the knowledge acquired in the undergraduate course, students conduct research from linguistic or literary-cultural aspects. In their language studies, students are expected to focus on written language after the Tang-Song era in addition to modern Chinese, including dialects as their research subjects rather than the classics. Whichever course is chosen, students are expected to take step toward becoming professional Sinologists.

授業担当専任スタッフ Academic Staff Profiles

任 鷹 (にん よう) Ying REN

●教授/Professor

現代中国語文法を研究している。とりわけシンタックス及び意味論の研究が中心である。

Research interest includes syntax, semantics, and the studies of writing



下地 早智子 (しもじ さちこ) Sachiko SHIMOJI

●教授/Professor

印欧語がセンテンス指向型の言語であるのに対して、日本語や中国語は談話指向型、語用論指向型の言語であるといわれることがあります。ともに談話指向型であり、漢字を有することなどから、日本人にとって中国語は極めて親しみやすい言語と言えます。しかし、そんな中国語にも日本語からは考えられないような文法現象が多く存在するようです。何が異なるのか、なぜ異なるのかを考えることが私の課題です。

Chinese Linguistics. Contrastive analysis of contemporary Mandarin Chinese and Japanese with emphasis on grammar and semantics.

竹越 孝 (たけこし たかし) Takashi TAKEKOSHI

●教授/Professor

中国語歴史文法を研究している。特に元・明・清代における中国語北方方言の変遷過程をアルタイ諸語との接触という観点から分析し直すことを主眼として、中国語とモンゴル語、満州語、朝鮮語などの対音・対訳資料を用いた研究を行っている。

Chinese historical grammar, specially based on materials outside of China in Yuan, Ming and Qing dynasty.

秦 兆雄 (しん ちょうゆう) Zhaoxiang QIN
●教授/Professor

中国社会・文化の理解にとって極めて重要な柱である家族・親族・婚姻・死生観について、その実態と理念及び現代的な諸変化を、実地調査に基づいて実証的に解明しようとしている。また、日本との比較の視点から、今後の中国社会秩序の変動や再構築などを考える上で、宗教や民族などの諸問題がいかに重要な要素になるのかに注目しつつ、都市化やグローバル化などの変動過程において、家族・親族関係がどのように社会保障制度として機能し、文化資源として活用されるのか、都市と農村の格差とそれに起因する人口移動や計画出産問題と関連する少子高齢化問題がいかに重要な要素になるのか、などについても論じている。

My main research, which is based upon fieldwork, compares the Chinese and Japanese systems and cultures of marriage, family, and religion.

紺野 達也 (こんの たつや) Tatsuya KONNO
●准教授/Associate Professor

唐宋期の詩文、特に盛唐期の王維の詩歌とその受容を研究することにより、「園林」(荘園・庭園)を中心に地域・風土・風景と文学との関係を考えています。また、広く東アジアにおける漢文学、漢文資料の流通といった問題にも関心を持っています。

Chinese Classical Literature, especially poetry and prose in Tang and Song dynasty

櫻井 次郎 (さくらい じろう) Jiro SAKURAI
●教授/Professor

中国の環境問題および持続可能な発展について法的・政治的視点から考察している。現在の中国では、経済成長と社会的安定を最優先する国家運営の在り方が環境政策に限界を与え、環境公害を深刻化させている。この環境問題の解決の道筋・方策を、中国の研究者や実務家らとともに探っていきたいと考えている。

Chinese Environmental Law, Environmental Policy, Sustainable Development.

津守 陽 (つもり あき) Aki TSUMORI
●准教授/Associate Professor

中国近現代文学、特に沈從文を中心に、〈郷土〉概念の形成と、それをめぐる文学表象について研究している。一種の共同幻想としての「ふるさと」「いなな」イメージは、近代中国だけではなく、日本を含む世界各国で様々に変異しながら盛んに生み出され、今も我々の世界観に影響を与えている。その〈郷土〉をつづることばのあり方について、関連する近現代の思想潮流と絡めながら研究している。

Modern Chinese Literature, Literary Representations of the Native Place, Shen Congwen



最近の修士論文等のテーマ Recent Master's Thesis Subjects

- ・ 結果補語の誤用分析—日本語を母語とする中国語学習者を対象として
- ・ 漢語双重否定式的機能分析
- ・ 現代中国語における三人称代名詞の非指示的用法について
- ・ 中国語諸方言における入声韻尾消失現象に関する考察
- ・ 現代中国語における述詞性の目的語をとる動詞類に関する研究
- ・ 現代中国語の因果を表す接続詞“因为(～の原因で)”と“由于(～の由に)”に関する一考察—「発話領域」(Sweetser, E. 1990)の観点から

院生紹介 Message from a Student

—なぜ修士課程に進学しようと思いましたか？

子供の時から両親の影響を受け、古典文芸に対する深い興味を持ちました。大学時代では日本語を学び、日本文化が中国古典文化に影響を及ぼされたことを知りました。来日して日本語をさらに磨きながら、古典を専攻したいと考え、修士課程に進学しようと思いました。

—神戸市外国語大学の修士課程を選んだ理由を教えてください。

最初は神戸市外国語大学の独特な課程研究コースに興味を持ち、進学説明会に参加しました。説明会では、先生が研究テーマと大学での生活について親身に相談に乗って下さりました。そこで、現在の指導教授と自分の研究テーマにあっていると思い、本学の修士課程を選びました。

—入学する前と後で大学院に対するイメージはどのように変わりましたか？

今まで受けた教育はほぼ「聴く」形だったので、大学院に入学する前は修士課程の授業もテキストの

内容を教えてもらう形式だと思っていました。実際、入学してみると、大学院の授業は教えられるだけでなく、自らテーマ知識を調べ、意見と成果をまとめ、発表することも大事です。つまり、知識を受けることより、得られた知識と自分の考えを合わせ、新たなものを発見し、さらに分かりやすく他の方に伝えることが一番求められる能力と思うようになりました。

—どのような学生生活を送っていますか？

1年目には週7コマ程度授業を受けました。授業以外は、ほぼ図書館で文献を調べたり、研究室で院生同士と話し合ったりしました。研究以外に、国際交流センターのイベントや学部生とのコミュニケーション活動に参加し、充実した学生生活を送っています。また、1年生の最後に先輩に誘われて「外大チャット」を見学したことがきっかけで、2年生になって、正式に参加しています。中国に興味を持つ日本人の学生と一緒に日中両国の文化交流をしながら、お互いの言語力を磨いています。



夏 俊逸 (2年)
XIA Junyi